

令和7年度第2回四日市市立図書館協議会 議事録

1. 日時 令和7年12月4日(木) 午後3時～
2. 場所 四日市市立図書館 2階 視聴覚ホール
3. 出席者 岡田委員、加納委員、北村委員、竹内委員、竹下委員、柘植委員、中井委員、福永委員、六代委員
図書館:谷本館長、川崎副館長兼奉仕係長、浅野管理係長
4. 欠席者 なし
5. 傍聴者 なし
6. 資料 【資料1】 9月議会(決算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑(抜粋)
【資料2】 四日市市議会提言シート(抜粋)
【資料3】 知と交流の拠点施設整備事業費 11月定例月議会資料より

(1)令和6年度決算報告について 【資料1】【資料2】

事務局より、資料1をもとに、令和7年9月議会決算常任委員会での質問質疑について説明を行った。次に、資料2のとおり、現図書館が最後まで市民に親しまれる施設であるための予算確保について提言があり、新図書館での活用も踏まえたソフト面での投資だけでなく、ハード面についても費用対効果を考慮したうえで予算確保するよう意見があつたことを説明した。また、これに対し、大きな費用を投じて工事をする必要があるかどうかを考えたうえで、授乳ブースの設置などのハード面について検討していくことを説明した。

委員:新図書館の計画が出てから随分経っているが、人件費や材料費の高騰など、新図書館に必要とされる費用は増えており、一方で、現図書館にも費用がかかるという状況。現図書館が大切なのは理解するが、もっと新図書館の計画を推し進めていくことはできないか。バランスよく予算を使ってほしい。

事務局:今回の提言シートは、市全体で5項目あげられており、そのうちの1つである。これまでは、現図書館のメンテナンスについては、新図書館の計画があるなかで、費用対効果を考えると大きく手を入れがたいという考えの中、何年も経過している状況である。新図書館は、最短で4年、それ以上に長くなる可能性もある中で、現図書館をもう少し大事に、という意見もごもっともだと思うので、真摯に受け止め、令和8年度予算から考えていきたいと思っている。

委員：授乳室は、新図書館ではもちろん整備するだろうが、職員が対応に慣れるためにも、現図書館で整備するとよいと思う。調乳もできるようにするのか、ポットを置くのは安全面からやめておくとか。実際に体験しないとわからないことがある。

委員：現図書館の利用者に目を向け、図書館を大切に使っていくことを考えてもらえたのはとても評価できる。利用者の立場に立った考え方がありがたい。新図書館に目が行きがちだが、引き続き、良い方向に現図書館を運営していってほしい。

委員：マップなどに「授乳室があります」と表示されているのを目になると、初めて子育てをする人などは「赤ちゃんを連れて行ってもいいんだ」と思える。「杖置き場」や「車椅子」なども同様。授乳できる場所を整備するだけでなく、マップに載せる、聞かなくてもわかるように表示をすることが大切である。

委員：「図書館の利用実績が前年度と比べて減少している」とあるが、実績がないため予算がつかない、ということにつながる心配はないか。

事務局：実績として数は減っているが、臨時休館のため開館日数が減っているのが原因であり、1日あたりの来館者数は減っていないことを説明した。電子図書館の導入により、紙の本を利用する人が減る等の影響を懸念しての質問であったので、電子図書、紙の図書それぞれが利用されており実態は減っていないということを報告した。

委員：新図書館のビフォーアフターを研究しているが、新図書館利用者の約7割が従前からの図書館利用者であることがわかつってきた。残り3割は新しく利用する人、利用を再開した人などである。7割程度が、旧図書館から継続して利用していることを考えると、四日市の現図書館の改善をすることは、そのまま利用者を継続させることにもつながると思われるるので、ぜひ実行されたい。植栽などでもイメージが変わるとと思う。また、亀山市立図書館の場合は利用者の6割が従前から利用しており、2割程度が近隣からの利用者で、鈴鹿市民の利用者が多かった。近隣からの利用者を取りこむことも大事である。

委員：四日市市立図書館の入り口は、道路から奥まったところにあり、なんとなく暗くて入りにくい雰囲気である、という声も聞いたことがある。外観の雰囲気も利用者にとっては大切である。

(2)「知と交流の拠点施設(新図書館)」の進捗について【資料3】

事務局より、資料3をもとに説明。前回の図書館協議会(8月21日)では、9月議会で上程と説明していたが、9月12日の大雨被害対応に注力するため取り下げ、今回の11月議会で再度上程となったところなので、まだ議論に進捗はない。前回との変更点としては、スケジュールが後ろ倒しになったこと、雨水の流出抑制方策についても検討を行うということが追記。また、図書館部分が大きなスペースを占めるとは言え、ホール等もある複合施設であることか

ら「新図書館等拠点施設」ではなく「知と交流の拠点施設」と名称が変更となった。

委員：雨水流出抑制についてだが、これは自分の敷地内で貯留水槽を作る、ということか。

事務局：具体的には書いていないが、他のところの雨水までも、ということではなく、自分のところの雨水は自分のところで、ということだと思う。

委員：フロア構成は、以前の検討内容を参考にしているようだが、図書館は3階からでよいのか。例えば、スターアイランド跡地での検討時は、円形デッキとの接続があったが、今回は接地しており人の流れが異なる。1階が図書館とはならないのか。図書館利用者が3階の図書館に行く場合、1・2階に寄ることなく、3階へ行くので交流がない。

事務局：フロア構成は、あくまでも仮ではあるが、動線や運搬経路などを考えると多目的ホールは下層にする必要がある。なお、隣接して整備する予定の駐車場と3階あたりで直結とし、ベビーカーなどでも雨に濡れずに来られるようにしたいと希望は伝えている。

委員：駐車場を利用しない人は、1階からの入館になるため上の階へは行きにくい。また、非常時などは、車いすユーザー等が上層階から避難することになる。常滑市は、新図書館の基本構想を委託ではなく、市職員が作成している。委託を前提にするのではなく、よいものをつくるために柔軟に対応して進めていくといい。

委員：全国的に見て7階建ての図書館はあまりないと思う。エレベータやエスカレーターなど、縦の動線はいろいろあるが、吹き抜けを作るなどして上下のつながりを意識した作りにするとよい。茨木市に「おにクル」という文化・子育て複合施設がある（7階建て：図書館、プラネタリウム、ホール、子育て支援センター等）が、複合施設ならではの交流がある。一方、福知山市は、同じく複合施設だが分断されている。1、2階に図書館、3階・4階にギャラリーや会議室、料理室など公民館機能があるが、それぞれの交流がなく、図書館利用者は他のフロアを利用しない。複合施設ならではの利点を活かしたい。

委員：日進市立図書館も、全て図書館だと思っていたら実は複合施設であり、テスト期間になると、会議室が学習室に代わる。そんなふうに、図書館と他の機能とが連携できることよ。市民の交流の場となるようなものになるとよい。

委員：デザインビルド方式はやめたほうがよいのでは。不調に終わるケースも多い。

事務局：その懸念については政策推進課とも共有しているが、工期の短縮がはかれるということ、概算事業費を見込めるというメリットの部分を考え、現時点では、デザインビルド方式を予定している。全国各地の公共事業で不調となっている事例があり、難しいところであるという認識はある。

委員：基本設計では、いろいろなアイデアを詰め込んでほしい。

委員：以前の市民ワークショップでは、さまざまな人の声を聞いているようだが、障害がある人が利用する視点はどうだろうか。以前に、車いすの人たちを連れて公共施設に行ったことがあるが、バリアフリーをうたっていても実際に行くと不便を感じることも多い。例えば、エレベータが狭くて、車いすの人1人、付き添い1人しか乗れないと、何往復もしないといけない。また、トイレの確認が必須であり、乳幼児のおむつ替えシートはあっても大人でも利用できるベッド（ユニバーサルシート）が備わっているトイレはあまりない。

事務局：スターアイランド跡地で検討していた際に、建物全体のハード面について、各障害者団体の代表者の方から意見を聞く機会を設けた。例えば、エレベータについては、非常ボタンがついていても声を出せなかつたり、ボタンが押せないこともあるので、モニターをつけるか、外から様子がわかるように透明部分がほしいなどの意見があった。

また、ユニバーサルシートについては、視察先の図書館でアドバイスをいただき、今、使用する利用者がいなかつたとしても必要な設備であること、後付けしようと思っても難しいため、1か所でもいいので最初から設置したほうがよいとのことであったので、新図書館では、そういう機能を備えたバリアフリートイレを考えている。

以上